

# ぶらっとサロン通信 令和2年9月増刊号



報告:有楽齋

毎週火曜日の午後1時過ぎから午後4時半ごろまで、朝日2丁目集会所で「健康麻雀ミーティング」をワイワイガヤガヤとやっていたのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、誠に遺憾ながら3月10日から自粛し**現在休局中**です。

椿の話題を少々。早春に本格的に開花シーズンを迎えるツバキは日本原産の花木で、7世紀から庭木として親しまれてきました。その後、徳川二代将軍秀忠が愛し、江戸城に国中のツバキを集めたことから多彩な品種が生まれ、大衆化したといわれています。(早咲き品種の椿『炉開き(ろびらき)』『西王母(せいおうぼ)』『太神楽(たいかぐら)』『野々市(ののいち)』等々はそろそろ開花を始めます。)



青いツバキ↑(青いマーク)

家光が名実共に三代徳川将軍になったことを寿ぎ、川越城主松平信綱が寛永11~12年(1634-1635)に描かせたともいわれる「江戸図屏風」(左図)には江戸城の「御花畠」が描かれていて、そこには赤や白ばかりでなく黄色や青いツバキがあります。青いツバキは果たして存在したのか。それとも幻想の花なのか。

(黄色のツバキは1965年に中国に自生する『金花茶(きんかちゃ)』等が確認され日本にも入ってきましたが、青いツバキは未だ未確認です)



## 金花茶(きんかちゃ)=左図 Camellia Chrysantha

中国広西省から昭和57年(1982)頃日本に導入され愛好家に親しまれ、育てられています。この花は、日本の椿にない黄色で、おしべはルッパ色にも見える見事な黄色花です。

『椿花集』(1879)に載る江戸期の古典品種として、『三鳥』『三妻』『五木』『七木』があります。今回は『椿花集三鳥』についてご案内します。

## 『椿花集 三鳥』 「呼子鳥(よぶこどり)」 「稲負鳥(いなおいどり)」 「都鳥(みやこどり)」



### 呼子鳥(よぶこどり)

Camellia japonica 'Yobukodori'  
極淡桃色 一重 ラッパ咲き 筒しべ 小~中輪 4~5月 5~6枚の花弁の中央部はやや内側に抱えており、基部は直立し、上半部は広く大きく反曲する。全体がラッパ状に開いて美しい花形となる。



### 稲負鳥(いなおいどり)

Camellia japonica 'Inaoidori'  
紅地に白斑 八重 蓮華性 散しべ 中輪 3~4月 30枚を超える弁が五、六重に配列正しく重なり花芯に近いほど小型になり、全開すると外弁は反曲ぎみとなり、花全体が蓮華性を帯び、ふくよかな量感が目立ってくる。



### 都鳥(みやこどり)

Camellia japonica 'Miyakodori'  
白色 八重 蓮華性 筒~割りしべ 中~大輪 4月 穂状に中折れした細長い14~15枚の花弁が三、四重に重なり、外弁は弓状に大きくそり、内弁は斜めに立ち上がり外弁が透いて秀麗な形になる。  
(都鳥はゆりかめめのこと)